

この連続講座は世田谷区グリーフサポート事業により補助されています。

「グリーフサポートせたがや」の連続講座

「いま」を生きる グリーフとともに

～喪失体験は過去形、哀しみは現在進行形～

「グリーフ」という言葉をご存じですか？大切な人やものを失って感じる、哀しみや傷つき、そしてさまざまな心身の反応のことをいいます。

9月の講座では、大切な人を亡くした体験を持つ当事者でもあり、支援者でもある3名の方からお話をうかがいます。

お一人おひとりのこれまで、今、そしてこれからについてうかがいながら、グリーフの多様さ、そしてグリーフとともに生きるということについて、理解を深めるための講座です。



第2回

死別による喪失

2017年9月2日（土） 午後2時～5時

場所 世田谷文化生活情報センター「生活工房」（キャロットタワー内）5FセミナールームAB
（世田谷区太子堂4-1-1）東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅から徒歩5分

登壇者（予定）

加治陽子さん 「グリーフサポートせたがや」メンバー、在宅クリニックのグリーフカウンセラー。子どもの頃の兄の死、両親の死からグリーフを学び、「グリーフサポートせたがや」の立ち上げに関わる。

ケンタロウさん 「LGBT・いぞくの会」を行うドント・ウォーリー代表。11年連れ添ったパートナーを急病で亡くし様々な困難を伴った看取りや死別の体験をもとに「ドント・ウォーリー」を立ち上げる。

森美加さん 「NPO法人暮らしのグリーフサポートみなと」代表、グリーフサポートせたがやファシリテータ。2006年、当時中学2年生だった息子の啓祐くんをいじめによる自死で亡くす。

参加費 1000円（パソコン文字通訳・手話通訳あり、保育は要申込）*介助者は無料

定員 先着100名（当日参加可・満席の場合は事前申込者優先）

申込先 電話、FAXまたはメールで一般社団法人グリーフサポートせたがやへ

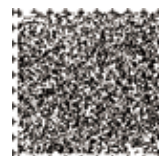
電話：03-6453-4925、メール：griefsetagaya@yahoo.co.jp、FAX：03-6453-4926

留守電の場合は、お名前とご連絡先を入れてください。折り返しご連絡いたします。

*会場にはエレベーターがあり、会場内は車いすで移動できます。

*原則として、世田谷区在住・在勤・在学の方が対象です。

主催：一般社団法人グリーフサポートせたがや 共催：世田谷区 所管：世田谷保健所健康推進課



「グリーフサポートせたがや」の連続講座

「いま」を生きる グリーフとともに



11月の講座では、性暴力を受けること、原発被害に遭うこと、
精神障害を抱えながら社会で暮らすことなど、
喪失体験により様々なグリーフを抱えて生き続けるということについて、
3名の方からお話しをうかがい、
これまでと今、これからに必要なグリーフサポートについて考えます。

第3回

さまざまな喪失

2017年11月11日(土) 午後2時～5時

場所 世田谷区役所第3庁舎3階「ブライツホール」(世田谷区世田谷4-22-33)
東急世田谷線「世田谷」駅・「松陰神社前」駅から徒歩5分

登壇者(予定)

- 山本潤さん** SANE 性暴力被害者支援看護師、性暴力サバイバー自助グループ「つぶいちごの会」主宰、『13歳、「私」をなくした私 性暴力と生きることのリアル』(朝日新聞出版) 著者。
- 鹿目久美さん** 「相模原の保養キャンププログラム「母ちゃんず」メンバー、福島からの自主避難者。神奈川県相模原市で、母子避難生活を送る。
- 新澤克憲さん** 精神障害をもつ方々の波乱に満ちた毎日の生活を題材に「幻聴妄想かるた」を制作・販売している就労継続支援B型事業所「ハーモニー」施設長。

第2回(9月2日)の会場(キャロットタワー生活工房)



一般社団法人
グリーフサポートせたがや(グリサポせたがや)って?

大切な人を亡くした子どもや大人が集い、遊びやおしゃべりを通じて、ゆっくりと自分のペースで自分の気持ちと向き合うことのできる家「サポコハウス」を世田谷区太子堂で運営しています。世田谷区グリーフサポート事業においては、個別対面相談や電話相談などを実施しています。



第3回(11月11日)の会場(世田谷区役所第3庁舎)

